

S I P 第 3 期「海洋安全保障プラットフォームの構築」
社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の変更について

令和 7 年 6 月 26 日
海洋安全保障プラットフォームの構築
プログラムディレクター 石井 正一

今般、海洋安全保障プラットフォームの構築においては、課題の進捗を踏まえ社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の変更を行いたい。主な変更内容は以下のとおり。

1. 研究開発項目における主な変更点

下記①～④のとおり各サブ課題が進捗する中、方策が具体化された諸点について詳述すべく変更を行うもの。

- ① サブ課題 A の「レアアース生産技術の開発」においては、「採鉱」について、2026 年 1 月に予定している南鳥島沖水深 6000m 海域における接続・採鉱試験準備を着実に進め安全な試験航海を実施する。
- ② サブ課題 B の「海洋環境影響評価システムの開発」においては、2026 年 1 月の接続・採鉱試験における海洋環境へのリスク評価を進め、2027 年度第 1 四半期までに予定する 350 トン/日（day）の採鉱試験に向けた「環境配慮ガイドライン」を策定する。
- ③ サブ課題 C の「海洋ロボティクス調査技術開発」においては、社会実装に向け 2025 年度に研究開発した小型安価 AUV の実証試験を実施する。また、AUV ドッキングターミナル構築の技術実証と、AUV、江戸っ子 1 号及び深海ターミナルとのネットワーク化についての技術開発を進める。
- ④ サブ課題 D の「海洋玄武岩 CCS 基礎調査研究」に関しては、既存の地球物理データの再解析と 2024 年度に取得した拓洋第 5 海山の反射法・屈折法データの解析結果を統合することにより CCS の貯留層選定に資する 3 次元地質構造イメージを構築する。また、海洋玄武岩 CCS に係る国内外動向調査を進め、拓洋第 5 海山を想定した海洋玄武岩 CCS の一次概念設計及び経済性の検討、国際共同研究の具体的な取り組みを進める。

以上